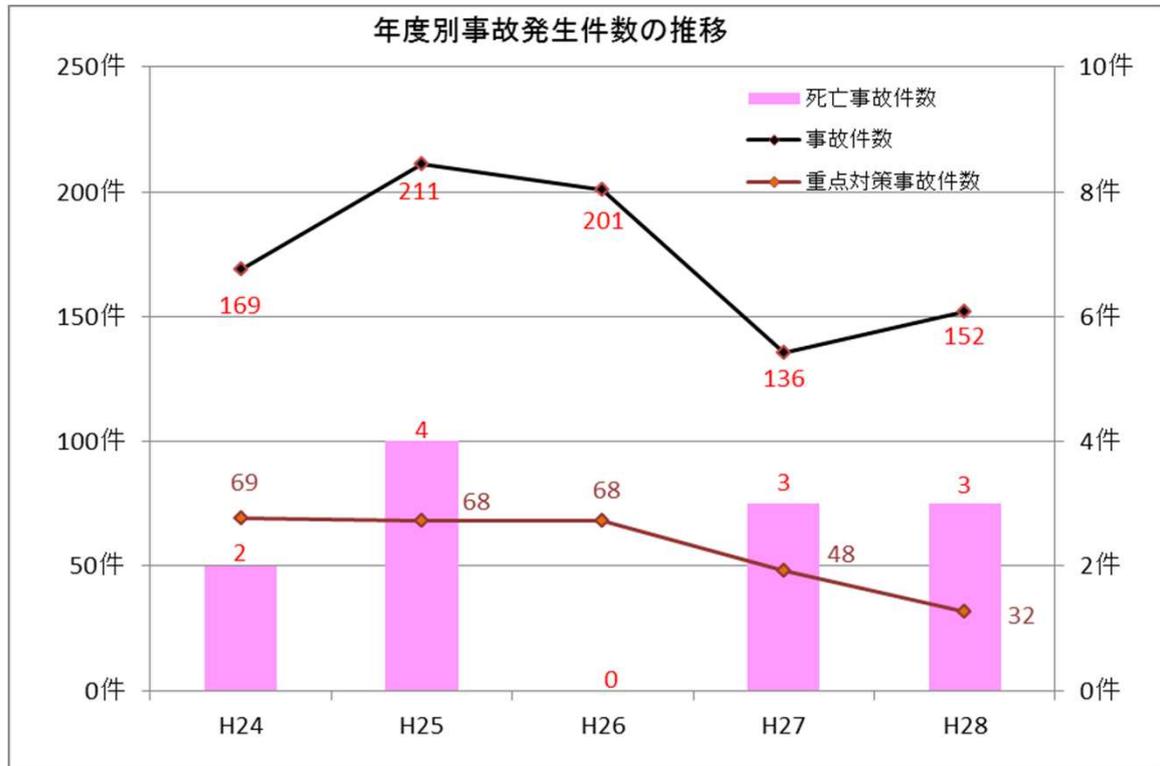
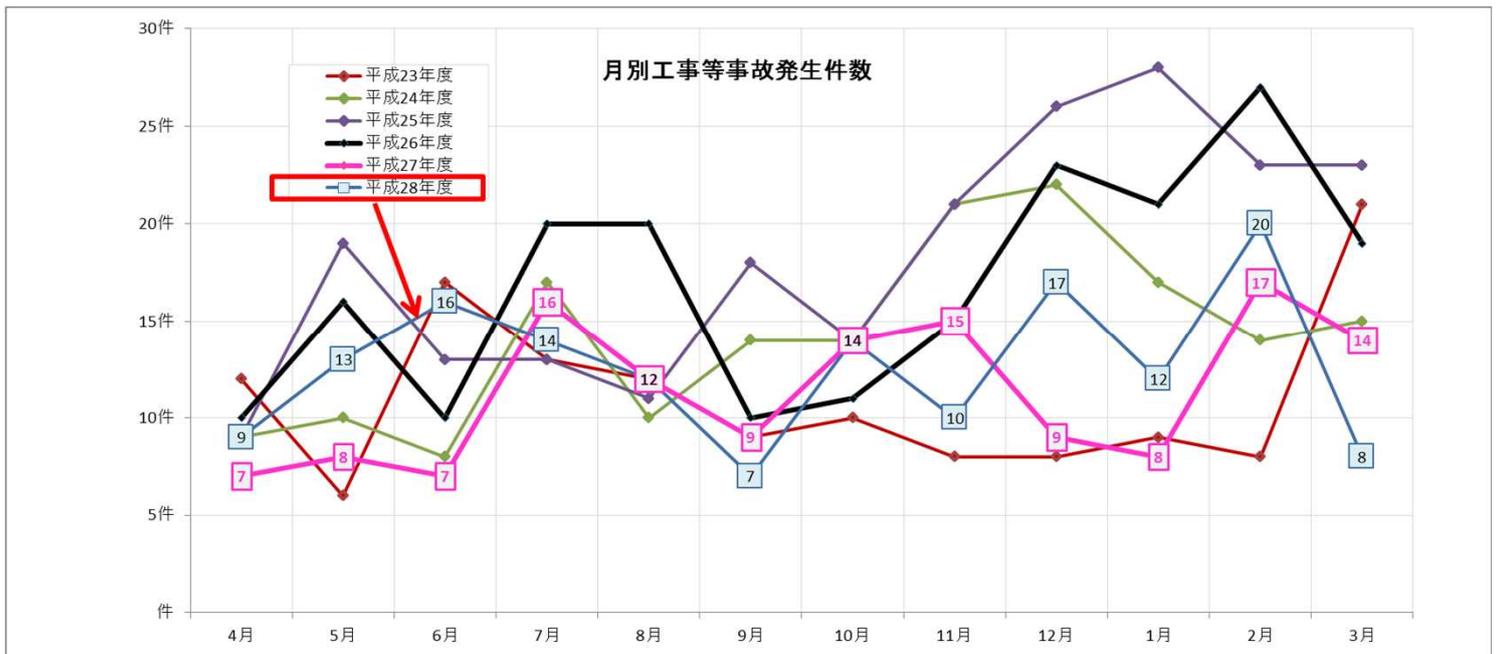


平成28年度直轄事故発生状況について

平成28年度の工事等事故発生件数は**152件**であり、平成27年度より**16件増加**



車両等による軽微な事故が増加したことで、全体の事故件数を押し上げる結果となりました。また、死亡事故についてもH27年度同様3件発生しており、引き続き注意が必要です。



例年、年度末に多発傾向でしたが、若干減少傾向となっています。近年、工事の発注について平準化が取り組まれており、工事等事故も毎月平均的に発生しています。

現場が動いている限り、事故はいつでも発生する可能性がありますので、作業中は常に注意を払い「事故ゼロ」を目指し、安全対策強化に努めるよう、心がけてください。

重機等移動時の架空線切断事故が多発！



工用道路や河川管理用通路等で重機等の建設機械が一時的に通行する際、架空線への接触による損傷及び切断事故が多発しています。

工事作業範囲だけでなく、一時的に通行する場所についても、離隔について確認を行い、注意喚起を行うようにして下さい。

【事例1】工事区域内において、排水構造物の施工準備のためバックホウを移動中に、バックホウのアームがNTT架空線に接触しメッセンジャーワイヤー1本と通信線1本を切断した。

※架空線までの高さ:4.5m



【事例3】降雨による増水に備えて、高水敷で作業中のBHを堤防天端に移動していたところ、堤防天端を架空横断していた関西電力の高圧電線3線(6,600V)のうち2線に移動中BHのアームが引っかかり断線させた。

※架空線までの高さ:4.8m

【事例2】クレーン付きトラック(3t)で植栽作業中、ブームを伸ばしたまま車両移動し、ブームで架空線を引っ掛け切断した。

※架空線までの高さ:4.6m

重傷事故が発生！

事故概要

河川維持の除草作業(ハンドガイド式草刈機:搭乗式)で、堤防の法尻付近を除草中、法面の凸凹でバウンドし足を踏み外し、左側履帯部分に巻き込まれ膝から下を切断した。

今回安全装置(緊急停止スイッチ)が装着されていましたがこのような事故が発生しました。原因についてはまだ、調査中ですが、**安全装置(緊急停止スイッチ)についても、適切に使用するよう再度徹底して下さい。**



昨年度、ハンドガイド式草刈機の下敷きになって、亡くなるという事故が発生しており、平成28年10月発行(第266号)で、事例を掲載いたしました。ハンドガイド式草刈機と作業員との接触は大きな被害をもたらします。

平成29年度は、ハンドガイド式草刈機を始めとした「除草作業における事故」が重点対策項目となっていますので、今一度、作業前点検や作業手順を確認し、除草作業における事故をなくすように心がけて下さい。

草刈時の事故に注意

草刈りの時期がやってきました。除草作業中の事故は昨年度7件発生し、今年度も既に1件発生しています。

昨年度は除草作業中の事故は飛び石事故だけでなく、距離標の破損やハンドガイド式草刈機との接触事故も発生しました。作業前の障害物の確認、作業中の立入禁止措置、飛び石対策など事故防止対策を確実に実施し、事故発生を防止しましょう。



除草による飛び石事故の防止について

近年、除草による事故発生件数の減少が見られません。飛び石については車両や家屋への影響だけでなく、走行車両への影響により人命にも関わる場合もあります。事故防止対策を確実に実施し、事故発生を防止しましょう。

過去には飛び石事故対策を行っていたものの、結果として事故が発生した事例があります。

【事例1】 (あんぜん201号より引用)

肩掛け式除草機で現道上の植栽帯を除草作業中、小石等が飛散し通行中の第三者車両に当たり、左側ドアを損傷した。

事故原因：歩道側と車道側に飛散防止ネットを張っていたが、小石がネットを飛び越えたため。

再発防止策：防護ネットの大きさ・種類などを適切に選定する。

草刈者とネット支持者の位置関係を適切に保つ。

【事例2】 (あんぜん241号より引用)

堤内法面の法裾（民家近接箇所）を肩掛け式草刈機で除草作業を行っていたところ、同時刻に当該堤防天端にある兼用道路に駐車していた車のフロントガラスにヒビがはいていた。

事故原因：駐車車両に対して飛び石対策を実施していなかった。

再発防止策：民家近接箇所や道路に挟まれている箇所においては、道路側にも飛散防止ネットを配備する。

【事例3】 (あんぜん241号より引用)

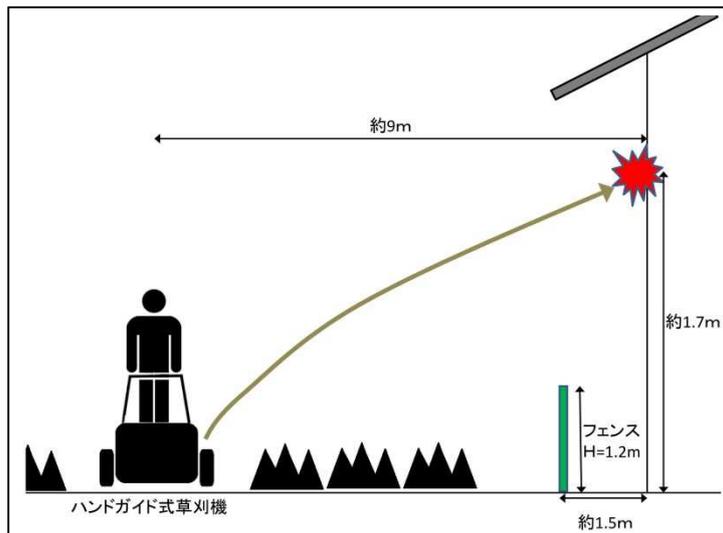
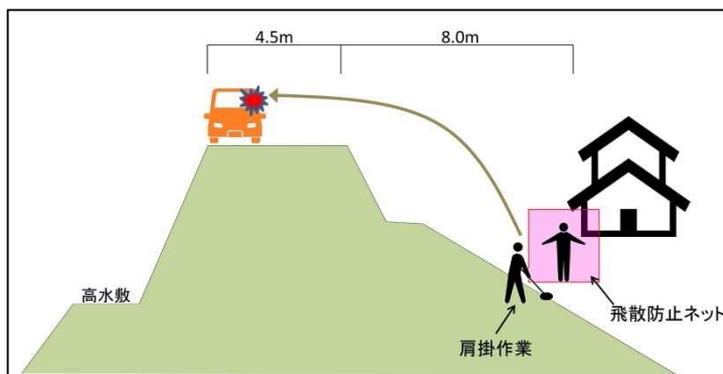
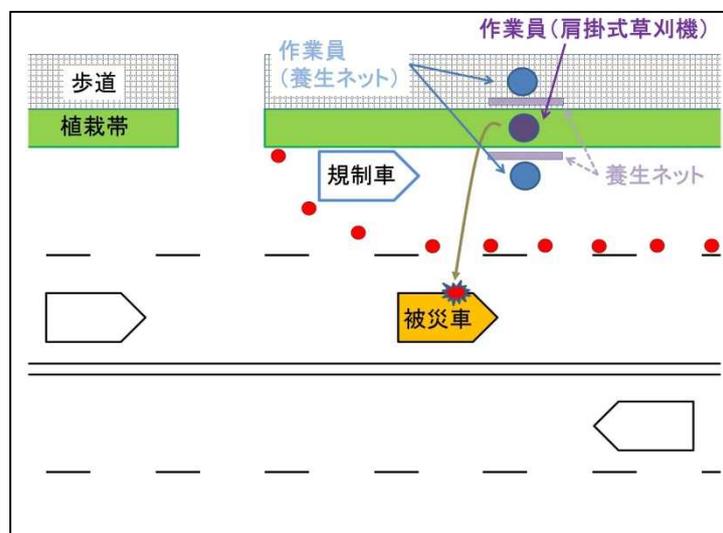
河川堤防天端の除草を行うにあたり、飛石対策として小型のハンドガイド式草刈機を使用したところ、跳ね上げた小石が窓ガラスを破損させた。

事故原因：ハンドガイド式草刈機は飛び石が無いと誤認していた

再発防止策：小型のハンドガイド式は刈刃が肩掛け式と同じく水平方向に回転する物が多いため、機械側面にも飛石防止カバーを取り付ける。

【事故防止対策案】

- ・ 防護ネットの大きさ・種類などを適切に選定する。
- ・ 草刈者と防護ネット支持者の距離を飛散角度に留意し、適切に保つ。
- ・ 飛び石の飛距離は、20m以上になる場合があるため、必要に応じて防護ネットの配置を行う。

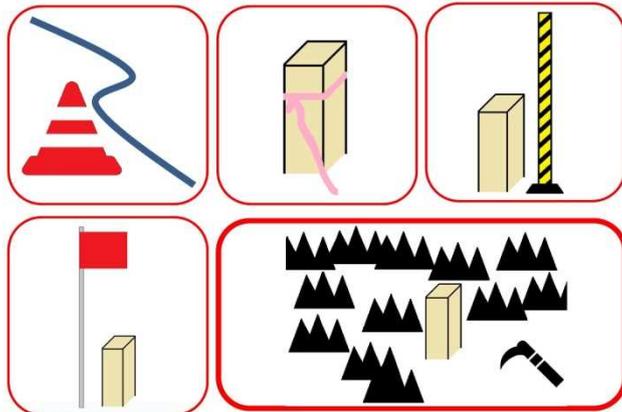


距離標破損・ケーブル切断について

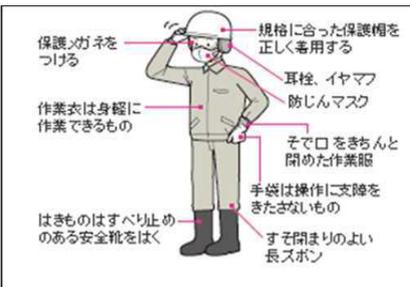
草に隠れた距離標や露出ケーブル類は、作業時には確認できない場合が多いため、支障物件周辺では、事前調査を行い距離標・ケーブル類の有無を確認し、わかりやすい目印（ポールや、リボンなど目立つもの）を付けたうえで倒れないようにしっかりと固定し、位置を明示しましょう。また、必要に応じて周囲の手刈りを先行して行いましょう。

【事故防止対策案】

- ・ 施設管理者との事前協議を実施する。
- ・ 事前調査を十分に実施し、わかりやすい目印を取り付け、明示する
- ・ ケーブル・距離標周辺は鎌による手刈りを行う。



草刈り時の注意点



①作業範囲の清掃・障害物の確認

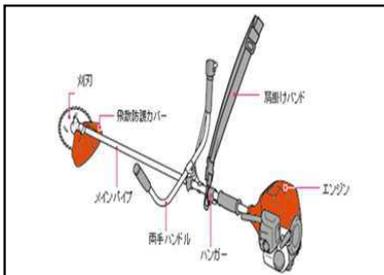
作業範囲に障害物（ゴミ、ケーブル等）が無いを確認したうえで取り除けないものがある場合は、わかりやすい目印（ポール、リボン等）を倒れないようにしっかりと固定して設置し、周囲を手刈りする。

②作業前の機械の点検

機械の各部に“緩み”や“がたつき”が無い点検し、飛散防止カバー、ハンドル、肩掛バンド等を必ず取り付け、緊急時の脱着方法を確認しておく。

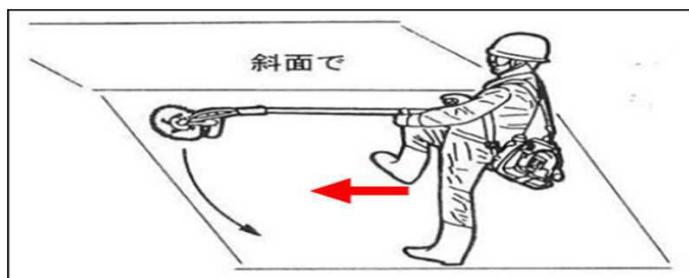
③作業時の服装

衣服は袖口を閉めた長袖シャツと長ズボンに加え、手袋、保護帽、フェイスガード、防護メガネ等、適切な服装で行う。また、現場の状況に合わせて防塵マスク、耳栓等をする。



肩掛式草刈り機の注意点

- 半径5～10m程度に人がいないか確認する。
- 近づく際は必ず離れた位置で合図し、エンジンを停止したことを確認してから近づく。
- 斜面では、足下を固めて、側面に立ち、上面から下面に向けて平行に刈る。絶対に法面の上段から下方を向いては刈らない。
- 道路・民家等の近接箇所では、必ず防護板や飛散防止ネット等を配置して作業を行う。また車両、通行人が近づいたときは作業を中断する。



ハンドガイド式草刈り機の注意点



ハンドガイド式草刈り機は前面にカバーがついているため、飛石は少ないと考えていますが、側面のカバーの無い所から飛んだ事例もみられます。（P2【事例3】参照）

【ハンドガイド式による飛び石対策の例】

- 作業前の清掃で石を除去
- カバーが無い部分にカバー取り付け（特に搭乗式以外の場合）
- 必要に応じ防護板や飛散防止ネット等を配置



平成29年度全国安全週間
主唱者 厚生労働省 中央労働災害防止協会
期間 平成29年7月1日～7月7日

